



さらなる多言語化へ

日本では、国際化、多様化、多言語化の流れは、普遍化しつつあるように見える。

最近、中国のチベット族、ウイグル族の暴動のニュースをみて、彼らが、風貌や文字も違うことに気づいた。中国東北部の朝鮮族自治州に行った時、看板にはハングルと簡体字が併記されていた。

中国には56の民族があるという。それぞれが独自の言葉や文化を持っている。

人類は、太古の昔から移住・移動を繰り返してきた。また戦争などによる捕虜や強制連行、強制移住、いまでも難民となって命からがら他国へ避難せざるを得ない人々がいる。

考えてみれば、世界は今までも多様であったし、多民族・多言語であったはずだ。けれども、強者の支配の中で、強者の言語、ルールが一般に通用し、弱者は見えなくされてきた。

私たちが日本人は単一民族だと教えられてきたが、よく見れば、その中にもアイヌや沖縄など、異なる文化や言葉を持つ人がいることに気づいた。

さらなる多様化・多言語化へ。これからも、世界の人々が認めあい、理解しあうためにKBSも歩んで行きたい。

代表取締役 高 允 男

JP2009

情報・印刷産業展に出展

5月28日～30日、インテックス大阪にて開催された「JP2009情報・印刷産業展」に参加しました。私にとっては、2006年のJGAS、去年のOMMでの展示会に続き3回目の展示会でした。

今回はアプロスさんのブースを半分借りて出展しました。多言語で制作したリーフレット、パンフレット、チラシ、マニュアル等の印刷物を長机に並べ展示しました。スペースがあまり広くなかったため、あまり目立つ展示はできなかったのですが、たくさんのお客様が立ち止まって話を聞いてくださいました。簡単に会社の業務の紹介をして、特に現在多言語に関連のあるお仕事がある方にはより詳しく説明をさせていただきました。

たくさんのお客様とお話させていただいて、英・中・韓国語を中心にドイツ、ロシア、アラビア語等も翻訳のニーズがあり、ウェブサイトの多言語化、論文、商品名などのお仕事も現在多くあることがわかりました。

また、いつもお世話になっているお客様も何社か出展されていて、いつもは電話やメールでしかやりとりができないお客様と直接お話をすることができました。途中、会社から翻訳部や制作部のスタッフも応援にかけつけ手伝ってくれました。また、本人達も他のブースを回り、普段会社では学べないことをたくさん勉強できました。

展示会は準備や移動が大変でしたが、とても有意義で楽しい3日間になりました。今回の展示会の成果がお仕事につながって、たくさんのお客様のお役に立てることを願っています。

営業企画部 野間 幸子



5月23日、恒例のKBS焼肉大会が行われました。いつもの大阪城公園、いつもの木陰で。アプロスの新井社長をはじめ、渡嘉敷さん、カタノさん、環春ゴールドの李ホ Chol さんをゲストに迎え、楽しい時間はゆつりと流れました。

今回の幹事は営業企画部の野間さん。あらかじめ分担も手際よく、買出し、料理の準備、火おこし・肉焼き…の組にわかれ、そして「乾杯！」の音頭で宴ははじまりました。

「きょうの肉は特にうまい！」。いや、ほんとにおいしかったです。肉もよかったです、いつも焼き担当の稲木チーフ、横澤さん、炭火の熱い中ごくろうさん。感謝ですね。いや、みんなが分担してこの日を楽しく盛り上げたことに感謝ですよ。

宴もたけなわ、この日この場に集ったみんなが、順番に思うことを語る。ひとまわりしたところで、ギターを持ってきた私は、「二等兵の手紙」をなんとか弾き語りした。一年越しにリクエストしてくれた新井社長も歌った。カタノさんはブルースバンドをやって、めっちゃうまかったのでギターは渡しました。それにもひるまずハーモニカを吹き出した。小学生の時のもの。どうしても好きな教会のうた「いつくしみふかき」、なつかしい唱歌もうたったりした。

食べて、飲んで、語って、歌って…。時間はつづく。そして宴はつづく…。

宴はつづく…

焼肉大会

KBS 恒例

制作部 李秀泰



こんな仕事しています！



2008年末、英語翻訳／通訳者のトーマス・グロエンダルさんが通訳の仕事でドバイに出張しました。トーマスさんは、アメリカから来日し約10年間日本に住んでいることもあって日本語が堪能です。また研究者としての顔も持つトーマスは、仕事に関する下調べや調査を完璧にこなし、今回の仕事でもお客様に大変喜んでいただきました。では、トーマスの出張体験エッセイをどうぞ。

◆ドバイへ出張！！

「ドバイで通訳の仕事がある」と依頼が来た時に、私はとてもワクワクしました。砂漠のオアシスのイメージは魅力的であり、私にはイスラム教徒のインドネシア人である妻やサウジアラビア出身の親友もいて、中近東にいけることが楽しみでした。

私のドバイに対するイメージは「砂漠、油、お金」でした。また、人工島が作られたり、世界一の高層ビルが建設中であることをインターネットで知っていました。

◆私が見たドバイ

実際行ってみると、ドバイは先進国と発展途上国の要素が混ざりあっている都市でした。例えば、伝統的な町の隣に超高層ビルとモーターが突然現れ、その現代的な建物を少し離れるとレーシング用のラクターダが飼われ永遠に伸びていく砂漠が広がっているのです。

現地の日本人によると、元ドバイ人の市民が約15%を占め、アラブ系の移民を含めても約30%しかアラブ人がいない都市だそうです。よってイスラム系の人は多くいるはずなのに、私の宿泊した場所ではインドネシアで慣れ親しんだ祈りの呼びかけがあまり聞こえませんでした。

◆今回の通訳業務

この度の通訳はドバイにあるパーム・ジュメイラというヤシの木の形になっている人工島で行われました。ここの工事現場は、日本では見られないような中身が丸見えの足場で3,000人ほどの労働者が働いており、規模の大きさが印象的でした。また、移民労働者のほとんどがキャンプから現場までバスで通い、日当500円だけで働いていることに大変驚きました。

今回の仕事内容は、パーム・ジュメイラに走るモノレール駅にある液晶画面の接続、動作確認、報告およびトレーニングの通訳です。通訳の仕事は臨機応変に対応しなければならない場面が多々あるのが常で、業務を成功させるために下準備をしっかりとしておくことがこの仕事で最も大切なことだと思っています。しかし今回はありがたいことに、あらかじめ渡された資料に通訳に必要なとされる単語が既に和英訳されておりとても助かりました。

資料による通訳のしやすさの一方で、通訳の相手がネイティブではなく、南アジア人、フィリピン人、中国人が殆どで、思いやりのある表現と単語の選択が求められました。文化の違いが多くの誤解の原因となる可能性があるため、誰にでも理解できる情報を伝えることが私にとって重要でした。

日本人の担当者や労働者とのコミュニケーションの道具は、身振り手振りに加えてもちろん英語です。彼らは、使い慣れていない英語をフルに活かして、殆どの場面で感動するほどすばやく物事が進んでいました。しかしそれでもコミュニケーションがうまくいかず日程や設計上の問題が生じた場合、仕事の割振りや解決法を探すには円滑なコミュニケーションが不可欠です。そこで、通訳者がプロとして当事者の間に生まれたコミュニケーションギャップを正確に埋める役割を担うのです。これは、とても重要で責任のある仕事だと思っています。

◆最後に

日本の親会社の下に子会社が何段階もあって複雑な構成だったため、日程上の問題が発生したり、予想外のハプニングを乗り越えていく毎日でしたが、仕事はほぼ計画通りに、かつ前倒しされたのでゆとりを持って成功しました。また、同行された方々は思いやりがあったりたくましく、一緒に働きやすかったため、私は楽しく時間を過ごすことができました。

野間さんをはじめ、KBSの皆様にはとても面白い仕事を紹介していただき、大変有難うございました。

英語翻訳／通訳

トーマス・グロエンダル



When I heard that I might have a job in Dubai, my curiosity was instantly piqued. The image of Dubai as a desert oasis captivated me. With a Muslim wife from Indonesia and a good friend from Saudi Arabia, I looked forward to having a chance to visit the Middle East.

My preconceptions of Dubai were of sand, oil and money. Furthermore, I learned from the internet about the man-made islands and the tallest building in the world under construction there.

Once I arrived there, my experience of Dubai was a jumble of elements from the developed and developing worlds. According to a Japanese worker there, residents with origins in Dubai account for only around 15% of the population. Even including immigrants from other Arab countries, the percentage of Arabs in the population is only around 30%. While many of these immigrants are Muslims, I stayed in an area without the broadcasts of the prayer call that I was accustomed to hearing in Indonesia. In Dubai, skyscrapers and malls seemed to appear spontaneously next to the more traditional areas of town. Just beyond these modern structures, racing camels are ranched and the desert stretches on endlessly.

In this job I dealt with the LCD screens located in the stations of the monorail running the length of the palm shaped man-made island known as the Palm Jumeirah. Our tasks included the connecting the equipment, verifying its proper function and making reports. A day of maintenance training was also included. All of the vocabulary I would need for interpretation were already translated to English in the materials provided to me, making things much easier. While there are instances where the interpreter is called on to respond to sudden unforeseen events, as a general rule, I believe that preparation is the most important factor in a successful interpretation.

Unlike Japanese construction sites, the site was a village of scaffolding fully open to public view with over 3,000 laborers working there. Not only was the scale of the operation impressive, but it made a deep impact on me when I learned that the majority of the migrant laborers were bussed in from company camps and were earning just 500 yen a day.

While the vocabulary was made easier by the abundance of documents, the interpretation did require that I be thoughtful in my choice of expressions and vocabulary because I was working with non-native English speakers primarily from Southern Asian countries, the Philippines and China. Cultural differences could also be the source of many possible miscommunications, and it was important that I present information in a form that could be understood by everyone involved.

Under the parent company, the construction project included a complex many-layered structure of sub-contractors. There were many scheduling difficulties and unforeseen issues as a result. Japanese employees were not only responsible for management, but also were required to take on the complex technical tasks that could not be handled by less educated migrant workers. The tools for communication used in this case included ample use of gestures, accompanied by English. Technicians used the English that had not previously been a part of their jobs to its fullest and were impressive in their ability to quickly communicate their needs with other workers. When a scheduling or design issue occurs during construction due to a miscommunication, however, it is quality communication that is the most important factor in successfully distributing responsibility and finding a resolution. It is here that the interpreter plays a professional role in filling in the communication gaps that occur with other companies or workers. This is a very important responsibility.

Regardless of a few unforeseen incidents, good planning and doing things ahead of schedule lead to the smooth and successful conclusion of our tasks. The technicians I escorted were thoughtful, robust and easy to work with, making my time there very enjoyable.

Finally, I would like to thank Noma-san and the folks at KBS for offering me this eye-opening opportunity.

韓国自転車巡行は、出会いの旅。



会長 高仁鳳

蔚山と慶州へ

09.03.23 ~ 09.03.30

昨年4月から、朴正泰(新井)さんと始めた韓国自転車巡行は、ひとことで歴史探訪の旅といってもいい。

昨年は、韓国の南端、慶尚南道の釜山、金海、昌原、馬山、晋州、南海、統営、河東などをまわった。済州道は半分だけまわり、あと半分は今年廻るつもりだ。そうそう、智異山のふもと、青鶴洞へも行った。

今年、まず、蔚山と慶州へ行った。慶州は本当に自転車で廻るのがいい。

みなさんが、これから慶州へ行くことがあれば、是非レンタル自転車を利用するといいい。駅とか、バス停、ターミナルなどで、自転車のレンタルをしているので、それを利用すればいいと思う。

私たちは、3月23日、フェリーで出発した。昨年も第1回目はフェリーを利用した。今年も1回目はフェリーに乗った。フェリーは飛行機より、時間は余分にかかるが、これがなかなか楽しい。いろんな人と知り合いにもなるし。料金も安い。

釜山から市外バスに乗り、蔚山へ行った。そして蔚山のバスターミナルから自転車に乗って蔚山大学へ。

蔚山大学で特別講義を行う



蔚山大学で、一色先生や日本語学科の先生と

蔚山には、大阪から蔚山大学造船科で1年前から教鞭を執っている一色先生がいる。今回は、その先生に会うことになっている。



蔚山大学で講義

先生からの要請で、蔚山大学の日本語科の学生に、特別講義をすることになった。日本語科の学生の前だから日本語で話してもいいということで、チョンテさんも話をした。学生たち約60人は、熱心に聞いてくれた。私は日本での生活状況や、建国の幻のフィルムを上映しながら建国学校の話をした。

チョンテさんと私は、一色先生の寮で泊まること

になった。その寮は大学の敷地内にある。

リビングの他に部屋が2つもあって、一色先生の部屋とは別の部屋で私たちは泊まった。先生はこの寮で独りで生活している。たまに奥さんや、娘さんが日本から来るという。

朝食は先生が作ってくれた料理を食べた。先生はこの蔚山大学の他の先生からも信頼されていて、けっこう人気がある。

次に慶州へ。バスで行った。とにかく最近目は目的地まではバスを利用する。その地に着いて自転車で廻る方が効率がいい。

慶州バスターミナルで降りて、自転車で市内を走った。慶州市内は自転車で走るのがいい。道路も他のところより走りやすい。しかも、観光で廻るときとはちがいで、どこへも自由に行けるのがいい。



慶州、チョムソン台

まず、天馬塚へ行った。このあたりは大きな古墳が多くある。その後、慶州駅へ。駅前に観光案内所があって、そこで聞いた。案内嬢は2人いて、親切丁寧に教えてくれた。もちろん、今晚泊まるチムジルバンもどこにあるかを聞いた。市内の北の方にいいチムジルバンがあると教えてくれた。私たちはそちらの方へ行った。サクラが満開ではないが、道に沿って咲いていて、とてもきれいだ。

慶州は自転車でのんびりと廻るのがいい

大きな公園があった。公園内を走っていると、ポジャンマチャ(出店)がずらりと並んでいて、店を見ながら行った。後の方にあるアジュモニがやっているとところへ入った。おでんとビールを頼んだ。これが夕食になった。アジュモニにいろいろと聞いた。これが楽しい。単に観光では聞けない話が聞ける。慶州にこんなところもあるんだ。



慶州の公園で、ポジャンマチャ

で泊まり、明るく朝、早めにチムジルバンを出た。朝食を取ろうと、市場があったのでその中へ入った。市場はど

と同じくにぎやかだ。

私たちはある食堂へ入り、朝食をとった。この地方では豚肉クッパが有名という。初めて



慶州博物館、写真を撮ってもいい

食べた。このようにその地方でしか食べられない料理が食べられることも、この自転車巡行の楽しみのひとつだ。

国立慶州博物館へ入った。展示がよくできている。新羅の歴史がよくわかるように展示されている。美術品など1日では全部見られない。

それと、日本とは違って、ここでは展示品の写真を撮影してもいい。ただ、フラッシュはだめだという。

ほんとうに早春の慶州を楽しんだ。

<http://www.inbong.com/2009/koreacycle/kocyc1/>

海われの島、珍島へ

09.04.24 ~ 09.05.01

4月24日、海が割れる神秘の島、珍島へ。珍島からもっと南には小さな島が多い。その小さな島にも行った。その島を自転車で走るのは本当に気持ちがいい。

折りたたみ自転車を用意し、ソウルから飛行機を利用して行くことにした。珍島は韓国の西南端にあるので、釜山からバスで行くより、ソウルから新幹線KTXで行く方が楽だろうと、ソウルから行くことを決めた。

自転車も今までのものでは電車や地下鉄などに乗せるのが難しいので、折りたたみが出る小径車ダホンを選んだ。チョンテさんも同じ自転車をそろえた。

そもそも珍島へ行くことを決めたのは、チョンテさんからの提案だ。昨年から海が割れる珍島を見たいと、海われの日を選んで行くことにしたのだ。それが、4月25、26、27日だ。

そして、韓国観光公社へ情報を仕入れに行った。祭りの時だから、今までのように行きあたりばったりでは宿が取れないだろうと、宿も何件か連絡先を聞いておいた。

まず、チムジルバンが珍島には無かった。チムジルバンがあれば、宿の心配は無いのだが。民宿など数軒の宿に予約を取ろうと電話をかけたが、どこも断われ、宿を取ることができなかった。



前方の島・モドから来る人と出会う (イ・ジョンビン氏撮影)



鳥島の灯台

■宝島探検家のイベントに参加

そうするうち、ネットで、珍島観光局のホームページに、珍島海われイベント推進委員会が、宝島探検隊32人を選ぶという広告があったので、私はチョンテさんと2人申し込んだところ、あたった。

<http://miraclesea.jindo.go.kr/>

それは、ソウルから珍島まで観光バスで行き、1泊の宿泊料、イベント参加費用などがすべて、



チンド宝島探検隊32人

ただ、無料だ。宿を取ることが出来なかった私たちにラッキーだった。それに対する条件は、珍島のいいところを探して写真を撮り、それを提供することだ。しかも、それに対する賞品も出るという。ラッキーの上にまたラッキーが重なった。私が撮った写真を「鳳@bongのpage」に載せ、これを提出したら、これがなんと2位に当選した。賞品は30万ウォン分の商品を「フィルム・ナラ」から選びなさいという。

<http://www.filmnara.co.kr/>

今度、ソウルに行ったときに、何か選びたいと思う。どんな賞品があるのかな、たのしみだ。

宝島探検隊32人は、ほとんどがプロカメラマンか、セミプロたちだ。機材も望遠や広角などのレンズや三脚など、カバンいっぱいに入れて運んでいた。今回1位になった人も、持っているカメラもすごいもので、しかも望遠も、遠くのモノもくっきりと撮影出来ている。

ソウルへはふつうは仁川国際空港だが、今回は金浦空港に着いた。金浦は市内に近く、地下鉄で移動できる。

■KBSラジオ放送に出演



KBSラジオ放送出演

韓国KBSラジオ放送が、私にインタビューしたいと、ヨイドのKBS放送のスタジオに来てく

れと言う。初めてラジオ放送に出演することになった。ヨイドまでは地下鉄で行った。

ラジオ放送の内容は、次のサイトで、聞くことが出来る。

<http://www.inbong.com/2009/koreacycle/kocyc2/kocyc2-1/kbs-09-04-27.wav>

次の25日は、珍島海われイベント推進委員会が用意した、豪華観光バスに私たち32人の探検隊は乗った。ゆったり座れて、気持ちよく珍島へ向かった。

どのように電車に乗って珍島まで行こうかと心配していたがその心配が無くなり、楽々珍島まで行くことができた。しかも珍島での宿の問題が解決出来たのがよかった。

珍島に着くと、宿に荷物を置いて、すぐケメギという体験をした。これは、サカナを手でつかむ体験というモノ。海の満潮の時に網をはり、干潮になったとき、逃げ遅れたサカナを手でつかむ事が出来る。ある人は10匹以上捕まえた人もいた。

■神秘の海われを体験

翌26日は、いよいよ神秘の海割れを体験する日だ。午後5時頃、海が割れるという場所へ行った。すごい人出だ。またそのまわりは出店がいっぱいだ。時間があれば、店に入って地元のおいしいモノを食べたいが、その時間がなかったのは残念だ。

確かに海は割れた。約1時間少しの間、こちらの岸から、向こうの島まで人が歩ける道ができた。チョンテさんと私も少しだが、歩いてみた。ほんとうに左右は海、その中を歩くという、不思議な気持ちだ。

イベントが終わり、他の探検家のみなさんは私たち2人を残して、観光バスに乗ってソウルへ出発した。私たちは島めぐりをすることにした。珍島の南の方には小さな島が100以上ある。そのうち、2カ所を巡ることにした。

東ゴジャ島に着いたときだ。ほんとうに小さな島で、人もあまり住んでいないようだった。ちょうど、昼時だったので、店を探した。食堂らしきものはなさそうで、コンビニのようなものがないか尋ねたところ、小さなクモンカゲ(小さな店)が1軒あった。中は電気が消えていて暗い。

しかし、おじさんがいたので、「ビール、ありますか」と聞いたら、「あるが、冷えてないよ」と言う。理由をきくと、「あなた達と同じ船に乗って今着いたところだから」という。なんと、1週間済州道旅行から、今帰ったという。まあ、のんきなもんだ。それと、それだけ、こんな田舎でも、余裕が出来たということだ。

チョンテさんは、「しかし、店が休みの間、島の

人たちは、不便だったろうに」と言う。

もう1カ所の大きめの島、鳥島に寄った。ここでは1泊して、島の中を自転車で廻った。

港に船が着くと、パトカーに乗ったお巡りさんが、私たち2人を不思議そうに見ていた。

そのお巡りさんは2人で、1人は若い女性だ。「ど



魚を手でつかむケメギ体験

こか、泊まる宿を教えてください」というと、親切に教えてくれた。また、記念写真にと、写真を撮ってくれたりもした。韓国で、何か道を聞くなり、困ったことがあれば、交番所か、観光案内所を訪ねればよい。

昔から建っている古い灯台があったので、朝早くそこへ行った。ちょうど太陽が昇るのを見ながらの走りで、ほんとうにすがすがしい。

韓国の田舎を今まで廻ってみた感想だが、どんな田舎であろうとも道がいい。この島の道もよかった。しかも、田舎なので、車があまりないので、本当に気持ちよく自転車が走れる。

<http://www.inbong.com/2009/koreacycle/kocyc2/>

■これからも、つづく、韓国自転車巡礼

7月22日からは、全羅南道へ入り、麗水、順天だ。ここは1948年10月19日、麗水・順天事件が起きた場所だ。済州4・3事件と同じく、不幸な事件があった。また、樂安民俗村がある。今回はこの民俗村の中で泊まろうとおもう。

済州道には11月に行く予定だ。昨年同様、横山さんも参加する。また、他にも参加する可能性がある。済州道はレンタル自転車があるので、自転車を持って行けなくとも、サイクリングは可能だ。昨年は西半分を廻ったので、今回は残りの東半分を廻る予定だ。

ほんとうにのんびりの自転車巡行だ。3年の予定だったが、全国を廻るのにいったい何年かかるのやら。





裏切ること、
もしくは女性であること。
翻訳の正義をめぐって

フランス語 翻訳者 クレール・ステファンさん

文章が文学的でなくても私はよく二つの選択に直面します。伝えることに集中して原文に忠実に意味を訳すか、又は伝え方に集中して読者からみて読みやすく綺麗な文体を見つけるか、です。とはいえ後者は原文からある程度離れることと、私自身の感性を反映してしまうことになります。

翻訳は最終的には真実や正義のようなものです。私たちはそれらが存在することが分かっているのですが、現実には決して到達することなく求め続け、その手前に近づくことしかできないのです。それこそが、この仕事の面白味なのではないでしょうか？

Bonjour à tous,

Je m'appelle Stéphane CLAIR et voici bientôt 10 ans que je travaille comme traducteur indépendant, ce qui n'est d'ailleurs pas mon unique activité professionnelle mais cependant la plus stimulante intellectuellement.

En travaillant, je garde toujours à l'esprit cet adage italien que tous les traducteurs doivent connaître : « Traduttore, traditore », traduire c'est trahir, deux verbes à la forme très proche en français et en italien. Un autre adage, moins célèbre et très misogynne (que les lectrices me pardonneront) dit lui : « Une traduction est comme une femme, elle ne peut être belle et fidèle à la fois ». On pourrait bien entendu faire toutes sortes d'objections à ces affirmations mais il plane toujours un risque de trahison dans toute traduction.

La plupart des textes qui me sont confiés n'étant heureusement pas littéraires, je n'ai pas trop de difficultés à en rendre le sens exact. Cependant, le sens d'un texte n'en est qu'un aspect. Les plus beaux textes nous émeuvent par ce qu'ils disent mais aussi, et surtout, par la façon dont ils le disent. Même si le texte n'est pas littéraire, je suis souvent confronté à deux choix : rendre fidèlement le sens au plus près du texte original « me concentrer sur ce qui est dit », ou trouver une forme beaucoup plus élégante ou agréable à lire pour le lecteur « me concentrer sur la façon de le dire » mais qui me fait prendre une certaine liberté par rapport à l'original et engage ma propre sensibilité.

Une traduction, c'est finalement un peu comme la vérité ou la justice. Nous savons qu'elles existent, nous les cherchons, mais nous ne pouvons que les approcher au plus près sans jamais réellement les atteindre. C'est peut-être même tout l'intérêt de ce métier.

皆さん、こんにちは。

私はクレール・ステファンといいます。フリーランス翻訳家として仕事を始めてから、もうすぐ10年になります。他にもさまざまな仕事をしてありますが、翻訳は最も刺激的な仕事です。

作業をしながら、「訳すことは裏切ることだ」という翻訳家の方ならご存知かもしれないイタリアの言い伝えを思い浮かべています。訳すという言葉と裏切るという言葉は、イタリア語でもフランス語でもとても似ています。もう一つ、上記に比べるとあまり有名でなく女性蔑視的な言い伝え（女性読者の方には申し訳ありませんが）「翻訳は女性のようなもの。美しさと忠実さを両立することは不可能」もあります。もちろんいくらでも反論の余地はありますが、すべての翻訳には裏切りというリスクがつきものです。

私がふだん依頼されている翻訳のほとんどは、幸いにも文学的なものではなく、正確な意味を伝えるのにあまり苦労しません。しかしながら文章の意味はあくまでも一つの側面だけではありません。美しい文章は私たちを感動させますが、それは伝えている内容だけではなく、とりわけ伝え方にも感動するのです。

遊んで学ぶ 韓国文化

놀이로 배우는 한국문화

翻訳部 柳美善



韓国のすごろくで、「ユッ」という4本の棒を投げて、投げた棒の裏表や範囲の外に出た棒の数などによって進む数が決まる遊びです。

ユンノリは男女関係なく皆が楽しめる伝統遊びで、正月に家族や町の人たちが集まって楽しむ伝統遊びです。

もともと農耕生活の中で始まったユンノリは、その起源は三国時代にまでさかのぼります。ユンノリの名称の数え方は、ト、ケ、コル、ユッ、モと呼ばれます。正月に行われるユンノリは1年の農作の豊作と凶作を占う占術的な面を持っていたそうですが、今は時期と場所に関係なく幅広く行われる遊びです。

文化を伝える方法には様々な手段がありますが、最も記憶に長く残り、入り込み易いのは遊びではないかと思えます。そこで、私は韓国の優れた伝統文化の一つである遊びを紹介します。

韓国のスゴロク「윷놀이」이라고 하는 네개의 작은 막대기를 던져 던진 막대기의 앞뒤와 범위 밖으로 나가버린 막대기의 수에 따라 움직이는 수가 정해지는 놀이입니다.

윷놀이는 남녀노소 관계없이 모두가 즐길 수 있는 전통놀이로써 정월에는 가족이나 마을 사람들이 모여서 즐기는 전통놀이입니다.

원래 농경생활의 습속에서 시작되었다는 윷놀이는 그 기원이 삼국시대까지 거슬러 올라갑니다. 윷놀이의 끝수단위의 명칭은 '도, 개, 걸, 윷, 모' 라 불리고 있습니다. 정월에 하는 윷놀이는 일년의 농사의 풍흉을 점치는 일종의 점술적인 면을 가지고 있었다고 합니다만, 지금은 시간과 장소에 관계없이 폭넓게 즐기는 놀이입니다.

ノルティギは正月に女性たちが楽しむシーソー遊びです。これは、女性の代表的な遊びだとも言えます。それはなぜでしょうか？その昔、儒教思想が強かった韓国では、男性中心の世界であったため、女性の地位は非常に低く、様々なところで女性は行動の制約があり、外へ出ることさえも難しかったそうです。ただし、正月にはソルビム（正月の晴れ着）を着て長い板の両端に乗ってかわがる跳び、外を跳めることが出来たので、女性にとっては、誰でも楽しんでみたい遊びだったそうです。



널뛰기는 정월에 여자들이 즐기는 놀이로 여성들의 대표적인 놀이라고도 할 수 있습니다. 왜 널뛰기는 여성들의 놀이일까요? 옛날 옛날에 유교적 사상이 강했던 한국에서는 남성위주의 사회였기 때문에 여성의 위치는 아주 낮았으며 여성은 여러 면에서 행동의 제약을 받았습니다. 그래서 밖으로 나가는 것조차 힘들었다고 합니다. 그러나 정월에는 설빔을 곁에 차려 입고 길다란 판자의 양쪽 끝에 한 사람씩 올라서서 번갈아 가며 뛰고 구르며 마음껏 바깥을 구경할 수 있었습니다. 그래서 여성들에게 있어서는 누구나 즐겨보고 싶은 놀이였다고 합니다.



中国の庶民の人気料理 紅焼獅子頭

(肉団子と野菜の煮込み)
大众名吃——红烧狮子头

中国では、肉団子の醤油煮（紅焼獅子頭）が庶民料理を代表する一品であり、とても親しまれています。さてここで、この誰もがよく知っている家庭料理「紅焼獅子頭」の作り方を皆様に紹介したいと思います。ぜひ一度試してみてください。

在中国紅焼獅子頭是老百姓非常喜爱的一道菜，也可以说是真正的大众名吃。在此向诸位介绍一下这道家喻户晓的家常菜——紅焼獅子頭的制作方法，请您务必一試。

翻訳部 郝 晓 雯

■材料

豚ひき肉……300 g
チンゲン菜……8 株
れんこん……1 / 2 個
卵……1 個
生姜……1 かけ
青ねぎ……3 本
しょうゆ……大さじ 5 杯
片栗粉……小さじ 2 杯
(その内の小さじ 1 杯の片栗粉を水で溶いておく)
塩、味の素……適量

■用料

猪肉糜……300 g
青菜(菜心)……八棵
嫩藕……一节
鸡蛋……一个
老姜……一小块
葱……三棵
酱油……五大匙
干淀粉……二汤匙
(其中的一汤匙淀粉加适量水兑成芡汁)
盐、味精……适量

作り方

1. まず、れんこんをみじん切りにし、ねぎを縦に切り、生姜を包丁で叩きつぶします。卵には片栗粉（小さじ1杯）を入れ、時計まわりによくかき混ぜておきます。
2. 混ぜた卵を、器に入れた豚ひき肉とれんこんの中に注ぎ入れ、塩少々としょうゆ大さじ2杯ほど入れ、時計まわりによくかき混ぜます。
3. 混ぜたミンチ肉を平らなだんご状にする。
4. 中華鍋に油を注ぎ、熱くなってから肉だんごを入れ、だいたい2分間ほど揚げます。この時、外側がこんがりしてきたら油をよく切って出しましょう。
5. 鍋から油をいったん出し、先ほどの肉だんごと1000g(約5カップ)ぐらいのだしスープまたは水を入れ、しょうゆ大さじ3杯、生姜、ねぎを入れ、沸騰させた後、弱火で1時間くらい煮込みます。
6. ほどよく煮込んだ肉だんごを出し、今度はチンゲン菜を同じ鍋の中に入れ、約1分間火を通した後、肉だんごと一緒に皿に盛っておきます。
7. 最後に、チンゲン菜を出した残りのスープに、水で溶いた片栗粉を加えてとろみをつけ、6の上にかけて、できあがりです。

做法

1. 将藕剁成细粒，葱切段，姜用刀拍破，鸡蛋中加入一汤匙干淀粉按顺时针方向搅成全蛋糊。
2. 将蛋糊倒进肉糜、藕末里，放适量盐和两大匙酱油，按顺时针方向搅拌上劲。
3. 把肉馅捏成扁形的丸子。
4. 锅中放油烧至七成热，下丸子炸约两分钟，油炸至外表变金黄色后，捞出沥干油份装盘待用。
5. 将锅中的油盛出后，放入丸子，加约两斤汤或水、三大匙酱油、姜、葱，烧沸后改微火烧一小时以上。
6. 熟透后将丸子捞出装盘待用，把菜心放入锅里的汤中烧约一分钟至熟。
7. 捞出菜心装丸子盘里，锅中勾芡后淋入盘中即成。

初めまして。古謝義正と申します。

この名前からして勤づく方もいらっしゃるかと思いますが、昨年夏に沖縄から来て、ケイビーエスも大阪在住も1年の沖縄人(うちなーんちゅ)です。

理由は、WEBデザインの勉強をしながら、印刷業界での視野を広げ、自分の可能性を憧れの場所大阪で追求したいと思ったからです。その中でケイビーエスとの出会いがあり、外国語の組版やデザインってどうやるのだろうと興味を持ったことがきっかけで、ケイビーエスに入社いたしました。

第一印象は、なんてアットホームな会社なんだろうと思ったのと同時に国籍は違いますが、皆仕事をしながら1日に1回誰かが必ず笑うって簡単そうに見えて当たり前に出るってとても素晴らしい事だと感じました。

実際の業務では多様なフォントと各国の組版のルールに戸惑いましたが、温かい先輩方のおかげで今では模索しながら日々奮闘しております。また各国の「ことば」に触れていると、自然とその国の文化や歴史にも興味が出てくるもので、新しい発見が多々あり、その中で気づいた沖縄、中国、台湾のちょっとした共通点と沖縄のお盆のことを少し紹介します。

沖縄では、旧暦の7月13日から7月15日の3日間お盆を行います。

1 日目をウンケー(仏壇に供え物をして、先祖をお迎える日)

2 日目をナカビー(親戚にお中元をもって回る日)

3 日目をウークイ(ご先祖様をお送りする日)とい



制作部
古謝義正



■ウチカビ(写真左)
ヒラウコー(写真右)

中でもウークイは特に大事で、僕が小さい頃「行かないと、おばあに、めーごーさー(げんこつ)されるよ」とよく脅かされてきました。(笑)

ウークイとは家族、親戚一同仏壇の前に集まりヒラウコー(線香)で、ウートー(お祈り)し、ウチカビ(紙銭)を焚いて、ご先祖様をお送りします。他に青年会が夜中からエイサーを行いながら道じゅねー(路地を練り歩く行列のこと)するのもこの日です。

ウチカビは、「あの世のお金」で先祖の霊に持たせるお金として、中国や台湾でも同じウチカビの文化があります。現世のお金であの世のお金を買うって何だか不思議ですよ。

他にも中国では4月頃に清明節(せいめい)という祖先の墓を参り、草むしりをして墓を掃除し先祖を供養する日がありますが、この清明は沖縄にも伝来され旧暦の3月の吉日(中国の暦法にある二十四節季の一つ「清明」の季節)に清明祭(シーミー)という日があり、お墓の前にお酒や重箱料理を供えてウチカビを焼いてウートーします。その後は、お墓の前で供えていた料理をみんなで食べ、お酒を飲んだりして談笑します。それはピクニックに近い光景です。この中国や台湾と近い文化は琉球時代の名残りなんじゃないかな。僕自身も実際に沖縄から離れて大阪のこの地で記事を書いて気付き、非常にいい機会で勉強になったと実感してます。

これからもいろいろな国の「ことば」や「文化」を勉強しながら、丁寧な版作りを心がけ切磋琢磨しながら頑張りたいと思います。2年目も、ゆたくうにげさびら!(よろしくお祈りします!)

渡したときに差がつく 高品質コーティング名刺

500枚 4C/1C **4,980円** 税込



1 写真も文字も美しい
オフセット印刷

2 渡したときに差がつく
コーティング仕上げ

3 会員登録でおトクな
ポイント還元

4 2万円以上のご注文で
送料無料



コーティング(ラミネート)加工について

つや消しのシルクコーティングとつや有りのクリスタルコーティングをお選びいただけます。
クリスタルコーティングについては、ショップカードなどで、裏面に書き込みやスタンプができる片面コーティングも承ります

商品の種類 (価格はすべて同じです。)

S-BUR	両面シルクコーティング	中厚口
MS-BUR	両面シルクコーティング	特厚口
MC-BUR	両面クリスタルコーティング	特厚口
MCO-BUR	片面クリスタルコーティング	特厚口

サイズについて

すべての商品について、下記のサイズを選べます。
●91mm×55mm(日本国内での標準サイズ)
●89mm×51mm(欧米での標準サイズ)

価格表 (完全データ入稿 / 税込)

※販売価格は、予告無しに変更する場合がございます。最新価格は、ホームページにてご確認ください。

サイズ	色	500枚	1,000枚	2,000枚	3,000枚	4,000枚	5,000枚
91×55 or 89×51 (mm)	4c/0c	4,980円	6,480円	10,480円	14,980円	19,780円	24,480円
	4c/1c	4,980円	6,480円	10,480円	14,980円	19,780円	24,480円
	4c/4c	6,480円	8,180円	12,980円	18,580円	24,580円	30,580円

用紙について

ハイグレードコート紙を使用しております。

- 中厚口 250g/m²(四六判 220kg) 厚さ 0.27mm
- 特厚口 330g/m²(四六判 285kg) 厚さ 0.35mm

送料

全国一律 2,500円
(韓国よりEMS 便または DHL 便にて直送)
20,000円以上のご注文で送料無料。

納期

韓国よりEMS 便または DHL 便にて6~8日以内にお届けします。

ご注文方法

ウェブサイトでのみ受け付けております。
http://www.kbsprint.com よりご注文ください。



【個人情報の取扱について】

この社内報「ナルゲ」は、お取引先・外注先・協力関連先の皆様にお送りしております。
ケイビーエス株式会社は、お客様の個人情報を合理的かつ適切に管理し、業務の目的以外に使用いたしません。また、法令に基づき開示が義務づけられるなどの特段の事情がない限り、第三者に開示・提供することはありません。
当社が管理するお客様自身の個人情報について、お客様から内容確認、修正・更新・削除の要請を受けた場合には、お客様の意思を尊重し、合理的な範囲で必要な対応をいたします。
当社は、お客様の個人情報の保護に関する法令・規範を遵守すると共に、その取り扱いについては、適宜その見直しと改善に努めます。

夏季休暇のお知らせ

この度下記の通り夏季休業させていただきます。誠に勝手を申し上げますが、なにとぞ高配のほど宜しくお願い申し上げます。

8月13日(木) ~ 8月16日(日)

編集後記

●今年に入って、私が新たに始めたことはLinuxの勉強。その中でも海外では特に人気の高いUbuntuというOS。実際自分でインストールして使ってみると結構使えるOSだと判る。基本の文字コードはutf、Office系のファイルはOpenDocument Formatで保存される。そのメリットはというとプラットフォーム(OS)にとらわれず、言語にもとられない形式でデータを残すことができる。これから何年か経って、「もうそのファイルは古いから開けません」という確率はだいぶ低くなるはずで、官公庁などを中心に採用されるケースが増えつつあるようだ。このナルゲも、いずれはそういうファイルで作れればと思う、そんな一回目の副編集者でした。(横澤)

●第91回全国高校野球選手権大阪大会を先日観戦した。試合前のノックでは、どの学校の選手も、はつらつとした動きで、ボールを追い、捕り、素早く送球する。そのきびきびとした動作に彼らの、試合に臨む意気込みが感じられる。どの選手も、自分に出来る限りの目一杯のプレーをしたいという思いが、見ている者にも伝わってくる。高校野球というものは、試合の結果や勝敗よりも、ひとつひとつのプレーに全力を尽くそうと頑張るところに良さがあるのであり、そういった姿勢を見るのを楽しみにしているのは、彼らの家族や関係者だけではなく、見ている人たちみんながそういう思いではないか、と感じる。いつも高校野球を見ての癖には、その日の心に残った場面を回想しながら、何かしら爽快な気分が家路につく。まもなく、甲子園大会、彼らの元氣一杯のプレーを期待したい。(上岡)